

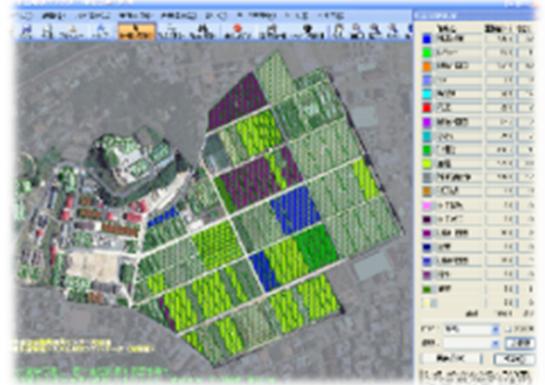
(4) 新技術等を活用した新しい農業の実現

ICT (情報通信技術) 等を活用した新しい農業の姿

農業は、光、温度、水分、栄養分等のきめ細かな管理が不可欠であり、こうした技術を備えた優秀な農家のノウハウは、なかなか真似できないものでした。

このような中、木質バイオマスなどの地域の未利用エネルギーを用いたエネルギー供給から生産、調製、出荷までを一貫して行う「次世代型施設園芸」や、農家の「匠の技」である知識や経験をデータ化し、ICTやロボット技術による超省力・高品質生産を実現する新たな農業（スマート農業）などの取組を進めます。

【スマート農業の一例】



センシング技術やデータ分析に基づく適切な栽培管理

「強み」のある農畜産物の創出

品種の開発等に当たっては、消費者や加工業者のニーズに十分に応えたものを創出していく必要がありますが、このような成功事例は少ないのが現状です。

このような中、マーケットインの発想に立ち、消費者や加工業者とともに、品質やブランド力など「強み」のある農畜産物を生み出す取組を進めます



生産者、製粉企業、ラーメン店など関係者が一体となって普及とブランド化に取り組む「ラー麦」



これまでにない製パン適性を持つ小麦「ゆめちから」を開発し、食品企業と連携したマーケティングで普及

次世代施設園芸の推進

林農林水産大臣によるオランダ視察

【目的】産官学が一体となった施設園芸の視察
 【視察先】グリーンポート(施設園芸クラスター)
 ワーヘニンゲン大学研究センター
 【視察日】平成25年5月31日



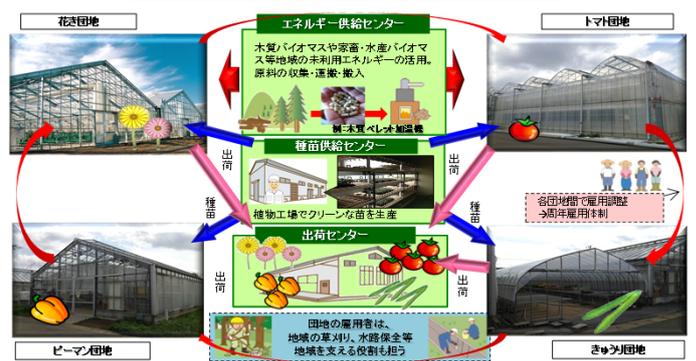
大規模化された視察先の園芸施設



ICTにより自動化された栽培システム

次世代施設園芸拠点のイメージ

＜大規模な施設園芸団地を集結＞



- 地産地消のエネルギーを利活用。
 - 高度な環境制御技術により周年・計画生産を実施。
 - 出荷センターを併設することにより、調製・出荷を効率化。
 - コスト削減と地域雇用の創出。
- Additional text: 団地の雇用者は、地域の集約し、水産基金等地域を支える役割も担う。

※これまで全国9か所を採択し、拠点準備を開始(平成26年7月現在)

【産業界との連携】産業界から農業界まで幅広く参集した『次世代施設園芸セミナー(平成25年10月、26年7月開催)』において、施策等を紹介。

【経済産業省との連携】経済産業省が実施する、適正な栽培管理に資するセンサーシステムの技術開発等の研究成果と連携。